

2008年国際航空宇宙展にMRJの客室モックアップなどを出展

三菱航空機は、来る10月1日（水）から5日（日）までパシフィコ横浜で開催される「2008年国際航空宇宙展」（ジャパンエアロスペース 2008/JA2008）に、開発を進めている次世代リージョナルジェット機、MRJ（Mitsubishi Regional Jet）の客室モックアップとMRJの縮尺1/20の模型などを出展し、三菱重工業株式会社と共同出展のブース内に展示する。

また、開催初日に行われるJA2008記念講演において、弊社社長の戸田信雄が、MRJの開発状況などについて基調講演する。

戸田は「MRJの“M”は、三菱航空機の“M”であると共に、皆様の“M”であると考えている。日本だけでなく、世界一流の多くのパートナーと一緒に開発する日本初の次世代リージョナルジェット機の客室モックアップや模型を、ご来場の皆様に、ぜひご覧いただきたい」と述べた。

今回展示するMRJ客室モックアップは、今年の7月に英国で開催されたファンボロー国際航空ショーにおいて三菱航空機シャレー内に展示したものであり、このモックアップの日本での公開は今回が初めてとなる。

2008年国際航空宇宙展（ジャパンエアロスペース 2008/JA2008）

<http://japan aerospace.jp/index.html>

三菱航空機株式会社について

三菱航空機株式会社は、MRJの設計、型式証明取得、調達、販売、カスタマー・サポートなどを担当するMRJ事業会社として2008年4月1日に事業を開始した。現在の資本金は700億円で、三菱重工業が67.5%を出資している。他には、トヨタ自動車が10%、三菱商事が10%、住友商事が5%、三井物産が5%を出資している。

MRJについて

MRJは、三菱重工業がこれまで防衛・民間航空機分野で数多くの開発・製造を行うことで培ってきた、世界最先端の航空機開発・製造技術力をベースに当社が開発する世界最高レベルの運航経済性と客室快適性を兼ね備えた70～90席クラスの次世代リージョナルジェット機。リージョナル機として初めて主翼、尾翼に複合材を本格的に採用、新型エンジンの搭載や最先端の空力設計などにより、燃費の大幅な低減を実現、エアラインの競争力と収益力の向上に大きく貢献する。最先端の幹線機技術を適用し、次世代リージョナルジェット機のスタンダードを創造する、環境、乗客、エアラインへ従来にない新しい価値を提供する。

お問い合わせ先：三菱航空機の広報代理店・株式会社アクセスイースト 03-5715-4088

E-mail: mrjproffice@accesseast.jp

以上